

## 地域再生計画

- 1 地域再生計画の名称  
ラグビーによるまちづくり事業
- 2 地域再生計画の策定主体の名称  
熊谷市
- 3 地域再生計画の区域  
熊谷市の全域
- 4 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現状

本市は、古くから交通の要衝として商工業が栄え、JR 熊谷駅前の中心市街地は県北地域の商業拠点として発展してきた。

スポーツではラグビーが盛んな土地柄で、ラグビー日本代表の宿沢監督や堀越選手を輩出しており、その背景には、小学生を対象としたラグビー教室の開催のほか、埼玉県では常にトップレベルの中学校ラグビー部、全国大会優勝経験のある熊谷工業高校ラグビー部の存在があり、近年では立正大学ラグビー部、女子ラグビーのアルカスクイーン熊谷が市内で活動している。平成3年に県営熊谷ラグビー場が整備されてからは、関東大学対抗戦やリーグ戦、トップリーグ戦が開催され、市民の身近なスポーツとして存在してきた。

また、ラグビーワールドカップ2015 イングランド大会のパブリックビューイングでは、深夜にも関わらず、関東各地から多くの観戦・応援者が県営熊谷ラグビー場に集合し、日本代表に声援を送った。そして、平成31年には、本市でラグビーワールドカップ2019が開催される予定である。

### 4-2 地域の課題

ラグビーはルールが複雑なことやサッカー人気等に押されていることから、本市においても、幅広いファン層の獲得には至っていない。また、県営熊谷ラグビー場は熊谷駅から4kmの位置にあり、公共交通の不便さや市内の道路ネットワークの脆弱性で、試合時には慢性的な渋滞が発生していることもあり、市外各地からのラグビー観戦者数は低迷している。平成26年度の1試合平均の有料試合観戦者数は691人、平成27年度はラグビーワールドカップ2015 イングランド大会の日本代表チームの活躍による影響効果もあり、観戦者数は前年度の2倍となる1,374人に増加したが、24,000人収容のラグビー場としては盛り上がりには欠け、大学選手権やトップリーグの好カードの試合でも、駅を核とした中心市街地に観戦者が集うようなまちなのにぎわいが発生していない。

飲食等の商業店舗では、観戦者を誘客できる商機と見ることなく、まちを挙げての盛り上がりには欠けており、ラグビー日本代表チームの合宿は行われるものの、社

会人や学生のラグビーチームの合宿を誘致することなく現在に至っている。

#### 4-3 目標

第一に、子供から大人まで、ラグビーを身近なスポーツにすることで、市民のラグビーファンを増加させ、ラグビータウンとしての誇りと一体感、郷土愛の醸成を図り、総合戦略に掲げる人口減少対策の基本目標である「20代・30代を中心とした出産・子育てに関する希望の実現」を教育環境の充実の視点から「ラグビーによる郷土づくり」の取組で、まちのブランディングによる転出抑制とU I Jターンを推進する。

第二に、市内外から公共交通を利用する観戦者を増加させるために駅からの会場までのアクセスを改善し、観戦者の増加と中心市街地への誘客を図るとともに、ラグビーチームの合宿誘致等のスポーツツーリズムで交流人口の増加を図ることで、総合戦略に掲げる「働く（働きたい）人が働き続け、暮らし続けられる雇用の創出」を商業振興によるにぎわい創出の取組で、飲食業等の商業活性化や、それに伴う起業・創業、事業拡大や雇用拡大となるような稼ぐ力につなげる。

これらの取組により、ラグビーワールドカップ2019開催を契機としたオール熊谷の「ラグビーによるまちづくり」を実現し、定住人口の増加と商業振興で持続可能な都市を目指すこととする。

#### 【数値目標】

項目	申請時	1年目	2年目	3年目	4年目
有料試合の1試合平均観戦者数(A)	1,374人	1,500人	1,600人	1,700人	3,000人
くまぴあ年間合宿者数(B)	2,419人	2,500人	3,000人	3,500人	4,000人
スポーツツーリズム参加者(A+B)年間消費額	3,000万円	3,200万円	3,700万円	4,300万円	5,400万円

### 5 地域再生を図るために行う事業

#### 5-1 全体の概要

5-2(3)に記載

#### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例  
(内閣府)：【A2007】

(1) 事業名：ラグビーによるまちづくり事業

(2) 事業区分：まちづくり

### (3) 事業の目的・内容

#### (目的)

本市は、古くから交通の要衝として商工業が栄え、JR 熊谷駅前の中心市街地は県北地域の商業拠点として発展してきた。

スポーツではラグビーが盛んな土地柄で、ラグビー日本代表の宿沢監督や堀越選手を輩出しており、その背景には、小学生を対象としたラグビー教室の開催のほか、埼玉県では常にトップレベルの中学校ラグビー部、全国大会優勝経験のある熊谷工業高校ラグビー部の存在があり、近年では立正大学ラグビー部、女子ラグビーのアルカスクイーン熊谷が市内で活動している。平成3年に県営熊谷ラグビー場が整備されてからは、関東大学対抗戦やリーグ戦、トップリーグ戦が開催され、市民の身近なスポーツとして存在してきた。

また、ラグビーワールドカップ2015 イングランド大会のパブリックビューイングでは、深夜にも関わらず、関東各地から多くの観戦・応援者が県営熊谷ラグビー場に集合し、日本代表に声援を送った。そして、平成31年には、本市でラグビーワールドカップ2019が開催される予定である。

ラグビーはルールが複雑なことやサッカー人気等に押されていることから、本市においても、幅広いファン層の獲得には至っていない。また、県営熊谷ラグビー場は熊谷駅から4kmの位置にあり、公共交通の不便さや市内の道路ネットワークの脆弱性で、試合時には慢性的な渋滞が発生していることもあり、市外各地からのラグビー観戦者数は低迷している。平成26年度の1試合平均の有料試合観戦者数は691人、平成27年度はラグビーワールドカップ2015 イングランド大会の日本代表チームの活躍による影響効果もあり、観戦者数は前年度の2倍となる1,374人に増加したが、24,000人収容のラグビー場としては盛り上がり欠け、大学選手権やトップリーグの好カードの試合でも、駅を核とした中心市街地に観戦者が集うようなまちなぎわいが発生していない。

飲食等の商業店舗では、観戦者を誘客できる商機と見ることなく、まちを挙げての盛り上がり欠けており、ラグビー日本代表チームの合宿は行われるものの、社会人や学生のラグビーチームの合宿を誘致することなく現在に至っている。

第一に、子供から大人まで、ラグビーを身近なスポーツにすることで、市民のラグビーファンを増加させ、ラグビータウンとしての誇りと一体感、郷土愛の醸成を図り、総合戦略に掲げる人口減少対策の基本目標である「20代・30代を中心とした出産・子育てに関する希望の実現」を教育環境の充実の視点から「ラグビーによる郷土づくり」の取組で、まちのブランディングによる転出抑制とU I Jターンを推進する。

第二に、市内外から公共交通を利用する観戦者を増加させるために駅からの会場までのアクセスを改善し、観戦者の増加と中心市街地への誘客を図るとともに、ラグビーチームの合宿誘致等のスポーツツーリズムで交流人口の増加を図ることで、総合戦略に掲げる「働く（働きたい）人が働き続け、暮らし続けられる雇用の創出」を商業振興によるにぎわい創出の取組で、飲食業等の商業活性化や、それに伴う起業・創業、事業拡大や雇用拡大となるような稼ぐ力につなげる。

これらの取組により、ラグビーワールドカップ 2019 開催を契機としたオール熊谷の「ラグビーによるまちづくり」を実現し、定住人口の増加と商業振興で持続可能な都市を目指すこととする。

(事業の内容)

○ラグビーによるまちづくり事業

初年度) ラグビー広報啓発・合宿所拡大整備

①熊谷ラグビー応援団のサイト開設

「ラグビータウンくまがや」の情報発信サイトを民間事業者と共同で立上げ、熊谷ラグビー場の試合日程等のタイムリーなラグビー情報と併せてまちのお得な情報を発信し、ラグビーファンを熊谷に誘導し、交流人口の増加を図る。

②小学生へのタグラグビー教室の開催

小学校5年生の全小学校のカリキュラムに組み込み、特色ある教育の推進として、アルカスクイーンズの選手等による指導でタグラグビーを体験し、親しみ、ラグビータウンとしての基礎をつくり、教育環境の充実を図る。

③ラグビー講座の開催

ワールドクラスの大会開催も視野に、ラグビーへの理解を深めるために、ラグビーのルール、見どころ等のポイントを解説する市民講座を開設し、ラグビーファンを増加させ、来訪者のおもてなしも含めてラグビータウンの意識を高める。

④ラグビーイベントの開催

市民等がラグビーに接する機会を作るため、パブリックビューイングやラグビー体験等のイベントと合わせ、有名大学やトップリーグの試合を開催することでラグビーファンを増加させる。

⑤合宿所整備(拡大)

全天候型グラウンド・体育館等のスポーツ施設を有する生涯学習センター「くまぴあ」の現セミナーハウスを合宿所に改修し、高校生や社会人のラグビーチーム等の合宿練習が開催できるように合宿所の収容人数を37人から100人に拡充する。

2年目) ラグビータウンの構築とワールドクラス大会の開催準備

①熊谷ラグビー応援団のサイト運営(継続)

②小学生へのタグラグビー教室の開催(継続)

③スポーツツーリズムの誘致

熊谷ラグビー場も有する熊谷スポーツ文化公園での試合観戦や合宿所の収容人数を拡大した生涯学習センター「くまぴあ」での社会人・学生チームの合宿等を誘致し、飲食やお土産等の地元産業の振興を図る。

④観客輸送計画の策定

熊谷駅を起点としたラグビー場等への公共交通を見直し、観戦者の輸送力拡大のため連節バスの導入計画等を含め、ラグビー場までのアクセスの利便性を

向上させ、観客数の増加を図り、ラグビーファンの獲得と中心市街地への誘導を図る計画を策定する。

⑤ラグビーワールドカップ開催に係るファンゾーン計画の策定

ラグビータウンとしての市民意識向上と誇りから、商業をアピールする効果的なエリアを設定し、国内外から訪れる観光客に熊谷の地域資源をアピールするほか、中心市街地等の商業店舗の連携により、特産品の販売、特産品を活用した新商品の開発・販売、その後の商品販売やおもてなし、稼ぐ力につなげていく計画を策定する。

3年目) ラグビータウンの推進とワールドクラス大会開催準備

- ①熊谷ラグビー応援団のサイト運営（継続）
- ②小学生へのタグラグビー教室の開催（継続）
- ③スポーツツーリズムの誘致（継続）
- ④ラグビーイベントの開催

市民等がラグビーに接する機会を作るため、ラグビー体験等のイベントと合わせ、有名大学やトップリーグの試合を開催することでラグビーファンを増加させる。

⑥観客輸送増強のための連節バスの導入

JR熊谷駅から熊谷ラグビー場までの輸送力を増強し、新幹線等を利用した公共交通機関を利用する観戦者の利便性を向上させ、観戦者数を増加させるとともに、中心市街地の核となるJR熊谷駅へ誘導する。

⑦ラグビーロード改修

JR熊谷駅からラグビー場までのアクセス道路を、ラグビーを象徴する多言語表示の案内看板設置も含めた道路に改修し、ラグビータウンをアピールし、ラグビーファンを熊谷ファンにつなげる。

4年目) ラグビータウンの推進と商業振興によるおもてなし体制整備

- ①熊谷ラグビー応援団のサイト運営（継続）
- ②小学生へのタグラグビー教室の開催（継続）
- ③スポーツツーリズムの誘致（継続）
- ④ラグビーワールドカップ開催に係るファンゾーンの運営

ラグビータウンとしての市民意識向上と誇りから、中心市街地で、国内外から訪れる観光客に熊谷の地域資源をアピールするほか、中心市街地等の商業店舗の連携により、特産品の販売、特産品を活用した新商品の販売を行い、その後の商業活性化に向けた稼ぐ力につなげていく。

(4) 総合戦略における位置付け

本市総合戦略において、ラグビーワールドカップ2019の開催を契機とし、基本目標の雇用促進における商業振興、転入・定住促進、子育て支援に資する取組に位置付けている。

○商業振興によるにぎわい創出及びファンづくりを通じた転入促進

観光による交流人口の増加（ラグビーワールドカップ2019開催に伴う商業活性化）

- ・ ラグビーワールドカップ 2019 開催を契機に、物販・飲食店を中心とした中心市街地商店街の活力・にぎわいの創出を図るため、熊谷を来訪する外国人等の受入体制の整備を進め、交流人口の増加（観光入込客数の増加）を中心市街地に誘客し、空き店舗の活用を促進させ、商業の活性化を図ることができる。

また、東京都市圏のラグビーファン・ラグビーチームをスポーツツーリズムで直接誘致することで商業振興が図られるとともに、熊谷ファンにつなげていくことで、中長期的にそのようなファンの移住候補地として定住を促進することになる。

○教育環境の充実

ラグビーによる郷土づくり

- ・ 特色ある教育の推進で教育環境の充実を図るため、ラグビーの普及により、体力強化・健康増進とともに伝統スポーツであるラグビーを幼少時から親しみ、ラグビーを通して、ラグビータウンとしての郷土への愛着を育成することで、若年層をターゲットにした定住又はUターンの促進から、人口減少対策を進めていくことになる。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

項目	申請時	1年目	2年目	3年目	4年目
有料試合の1試合平均観戦者数(A)	1,374人	1,500人	1,600人	1,700人	3,000人
くまびあ年間合宿者数(B)	2,419人	2,500人	3,000人	3,500人	4,000人
スポーツツーリズム参加者(A+B)年間消費額	3,000万円	3,200万円	3,700万円	4,300万円	5,400万円

(6) 事業費

○ラグビーによるまちづくり事業	事業費(千円)
・ 埼玉ラグビー応援団のサイト開設	2,000
・ 埼玉ラグビー応援団のサイト運営	360/年
・ 小学生へのタグラグビー教室の開催	454
・ ラグビー講座の開催	20
・ ラグビーイベントの開催（初年度1,000千円、3年目3,000千円）	4,000
・ 合宿所の拡大整備	150,000
・ スポーツツーリズム誘致	1,000/年
・ 観客輸送計画策定	3,000

・ラグビーワールドカップ開催に係るファンゾーン計画策定	3,000
・観客輸送（接続バス導入事業）	180,000
・ラグビーワールドカップ開催に係るファンゾーン運営	10,000
・ラグビーロード整備	15,000

年度別事業費内訳	H28	H29	H30	H31
事業費計（千円）	153,474	7,814	199,814	11,814
謝金	474	454	454	454
委託料	3,000	7,360	4,360	11,360
工事費	150,000	0	15,000	0
補助金	0	0	180,000	0

(7) 寄附の見込額

(単位：千円)

ラグビーによる まちづくり事業	年度	H28	H29	H30	H31
	事業費計	153,474	7,814	199,814	11,814
	寄附額計	100	1,000	1,000	1,000
寄附法人	電機メーカー	100	1,000	1,000	1,000

(8) 事業の評価の方法

(評価の手法)

事業のKPIである「有料試合の1試合平均観戦者数(A)」、「くまびあ年間合宿者数(B)」及び「スポーツツーリズム参加者(A+B)年間消費額」を公表し、本市の総合戦略有識者会議により、実績を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改善する。

(評価の時期・内容)

毎年度末の実績を、8月に開催する有識者会議による検証を行い、翌年度以降の取組に反映する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに熊谷市ホームページで公表する。

(9) 事業期間

平成28年9月～平成32年3月

5-3 その他の事業

該当なし

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の K P I である「有料試合の 1 試合平均観戦者数 (A)」、「くまびあ年間合宿者数 (B)」及び「スポーツツーリズム参加者 (A+B) 年間消費額」を公表し、本市の総合戦略有識者会議により、実績を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改善する。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度末の実績を、8 月に開催する有識者会議による検証を行い、翌年度以降の取組に反映する。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに熊谷市ホームページで公表する。